

「大豆バサグラン液剤」で大豆生育期の広葉雑草を防除！

【1 「大豆バサグラン液剤」はこんな除草剤】

(1) 大豆の生育期に処理できる広葉雑草対象の茎葉処理剤です。

表1 雑草の種類と効果の優劣

区分	主な雑草の種類
効果が期待できる	キク科(アメリカセンダングサなど)
	タデ科(イヌタデなど)
	アブラナ科(ナズナなど)
	ナデシコ科(ハコベなど)
	スベリヒユ科(スベリヒユ)
効果が劣る	アカザ科(アカザ、シロザなど)
	ヒユ科(イヌビユ、アオゲイトウなど)
	トウダイグサ科(エノキグサなど)

(2) 品種や気象条件などにより薬害が発生する場合があります。

表2 県内大豆品種の反応特性

品種名	初期薬害症状	回復程度	減収程度
ユキホマレ	褐変、縮葉、色抜け	やや遅い	小
ワセスズナリ	褐変、縮葉、黄化	やや遅い	小
ナンブシロメ	褐変、縮葉、黄化、落葉	早い	中
スズカリ	褐変、縮葉、黄化	早い	小
コスズ	褐変、縮葉、黄化、落葉	やや早い	微
青丸くん	褐変、縮葉	やや早い	無
秘伝	褐変、縮葉	やや早い	無
南部黒平	褐変	早い	微
黒千石	褐変、縮葉	早い	中

「減収程度」…無:0%、微:0%以上5%未満、小:5%以上10%未満、中:10%以上15%未満

品種や気象条件(高温・多照)などにより、葉の褐変や縮れなどの薬害が発生します。県内の主な大豆品種で本剤を処理した場合、平年並の気象条件でも相当程度の初期薬害症状が発生するとともに、品種によって10%程度の減収となる可能性があります。

【2 「大豆バサグラン液剤」を使える場面】

(1) やむを得ず広葉雑草が多発した場合に、減収の見込みなどを十分勘案したうえで使用します。

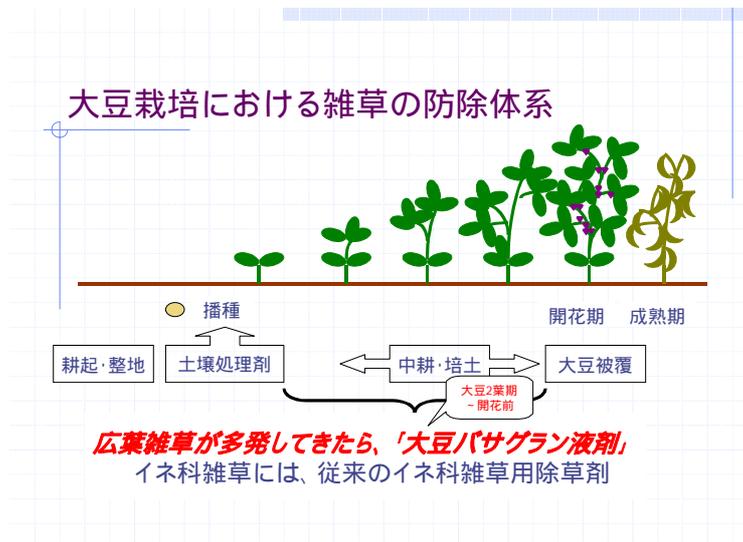


図 雑草の防除体系における「大豆バサグラン液剤」の位置付け

(2) 留意事項

- ア 本剤の使用に当たっては、病害虫防除所など指導機関の指導を受けましょう。
- イ 著しい高温が続く場合、日射が強くて蒸散が盛んな場合、低温・湿害・肥料不足などにより大豆が生育不良の場合などには薬害を助長するおそれがあるので使用は避けましょう。
- ウ 「大豆バサグラン液剤」以外のバサグラン液剤は、大豆に対して未登録で使用できません。